

## 山口 麻衣『高齢者の期待的介護ネットワーク

—フォーマル・ケアとインフォーマル・ケアの組み合わせパターン別分析—』

本論文は、既存データの2次分析を行ったたいへん意欲的な研究である。意欲的という意味の一つには、わが国では、1次分析（研究者がオリジナルなデータを収集）に比較して未だ2次分析が水準の低い研究として捉えられがちな傾向の中で、2次分析によって質の高い原著論文が執筆できることを示したところにある。レビューをふまえた上での目的の設定、実証的分析による結果の提示とその考察、さらには課題もきちんと述べられており、論文としての体裁にはまったく問題がない。

本論文が取り上げた「介護ネットワーク」は、もちろん現在のわが国においてタイムリーなトピックであることも間違いないが、日常的あるいは研究上よく用いている用語にしては、その指し示す内容が人によりかなり様々である。そこで本論文は、広範なレビューから、「期待ベース」であること、「性別」「子どもの有無」「配偶者の有無」さらには「フォーマルとインフォーマル」といった枠組みを設定してネットワークを把握することの必要性を示した。そして実際のデータを用いて、そのような枠組み別に介護ネットワークを捉えてみると、いくつかの差異が確認されネットワークの多様性が浮き彫りにされた。今後の介護ネットワーク研究に有用な示唆を数多く与える研究であり、原著論文としての価値はかなり高い。

しかしながら、いくつか気になる点はある。まず第1に、研究目的をもう少し絞り込んだ方がよかつたのではないだろうか。「期待ベース」の介護ネットワークの実態を示すのはよいとして、例えば、上に述べた4つの枠組みの中の「フォーマルとインフォーマル」に焦点をあてる分析のみを提示した方が、よりわかりやすい論文になったのではないと思われる。たしかに論文の表題上はそのようになってはいるが、要旨には「ジェンダーの視点から」という表現で性別が強調され、論文の中身でも、子どもや配偶者の有無によるネットワークの違いを論じている部分がかかりみられる。もちろんネットワークの分析に関わる要因を広く視野に入れることは重要であるが、字数が限られている論文に仕上げる際には、思い切ってある部分を「切り取って」提示した方が、よりインパクトのある論文になる可能性がある。例えばこの論文だと、フォーマルケアとインフォーマルケアの組み合わせの実態の単純集計と表4で提示されたロジスティック回帰分析の提示だけでも、十分にインパクトのある論文に仕上がると思われる。

さらに関連することではあるが、表3の集計表の説明は、かなりわかりにくいものになってしまっている。この表は、上記の4つの枠組み別にクロス集計を行ったものを1つの表にまとめたものであると考えられるが、かなり読み取りづらい。とくにクロス集計表のカイ二乗検定を行った際の、いったいどの部分のクロス集計の検定を行っているのかが、一目ではわかりにくい。おそらく字数制限の都合上工夫して作表したものであろうが、読者に負担を強いる提示のしかたは、あまりよいものとは思えない。もしも表3の結果を中心に論文を仕上げるのならば、表をいくつか分割して

分析を加えていく方がよいであろう。

最後に細かいことになるが、誤植と思われる部分があるので注意してほしい。とくに結果の提示の部分の誤植、相関係数の提示（40頁下から7行目の「FC含む」は「性別」か？）あるいは回帰分析の結果（40頁下から2行目「FC含む」は「FCのみ」か？及び41頁3行目1つめの「FC含む」は「FCのみ」か？）の部分は、場合によっては読者では誤植かどうか判断のつかない部分でもあり、それ故にそのまま正しいものとして読み進めてしまうこともあるので、校正等で十分に確認してほしい。

以上若干辛口のコメントとなったが、最初に述べたように、本論文自体はたいへん価値のある論文である。願わくば、この論文に触発されて、多くの2次分析を用いた論文が執筆されることを期待したい。

第5号論文及びContentsの中で山口麻衣氏の氏名の英文表記が間違っていました。正しくは、Mai Yamaguchiです。ここにお詫びして訂正いたします。